

“河の遺産” オオサンショウウオ生息地を訪ねるエコツアーリズム



河の遺産

特別天然記念物オオサンショウウオ

ハンザキ保護センター（真庭市）のオオサンショウウオ

山乗溪谷の源流環境

静かな里山を流れ落ちる足尾滝



湯原温泉はんごき祭り ハンザキ・シンポジウムと源流エコツアー

参加費無料

平成19年 8月 8日、9日

8月8日(水)ハンザキ・シンポジウム

- 時間：午後1時～午後5時
- 会場：湯原ふれあいセンター
- 講演：上島孝久氏（中国学園大学教授）
- パネルディスカッション
（途中、はんごき祭り神事見学：16時より）
コーディネーター
栃本武良氏（日本ハンザキ研究所所長）
パネリスト
桑原一司氏（安佐動物公園）
岡田 純氏（鳥取大学大学院）
上塩浩子氏（湯原温泉八景女将）
古林伸美氏（社）湯原観光協会会長

8月9日(木)源流エコツアー

- 時間：午前9時～午後3時 **申し込み必要**
- 集合：真庭市役所湯原支局駐車場（午前9時集合）
- 主催：晴れの国野生生物研究会、真庭遺産研究会
- 共催：（社）湯原観光協会、湯原町旅館協同組合、真庭森林組合、グラウンドワーク真庭設立準備会、真庭自然を觀察する会（仮称）、（株）環境アセスメントセンター、NPO法人地域再生研究センター
- 後援：真庭市、新庄村、江府町、真庭市教育委員会、岡山県教育委員会、新庄村教育委員会、岡山県美作県民局、鳥取大学農学部付属フィールドサイエンスセンター、文化庁、農林水産省中国四国農政局、国土交通省中国運輸局、環境省中国四国地方環境事務所、経済産業省中国経済産業局、真庭観光連盟、山陽新聞社、読売新聞大阪本社、毎日新聞社、朝日新聞岡山総局、岡山県観光連盟、オオサンショウウオの会、ランデス株式会社、（財）岡山県環境保全事業団、（財）日本グラウンドワーク協会



ハンザキの棲む「里川」のイメージ

問い合わせ：グラウンドワーク真庭設立準備会 tel：0867-55-2831 fax：0867-55-2832 e-mail：eac-gren@po.harenet.ne.jp

この事業は、河川整備基金、地球環境基金からの活動助成を受けています。



シンポジウム会場（湯原ふれあいセンター）



河の遺産

特別天然記念物オオサンショウウオ



ハンザキ保護センター（真庭市）のオオサンショウウオ

天然記念物「オオサンショウウオ生息地」

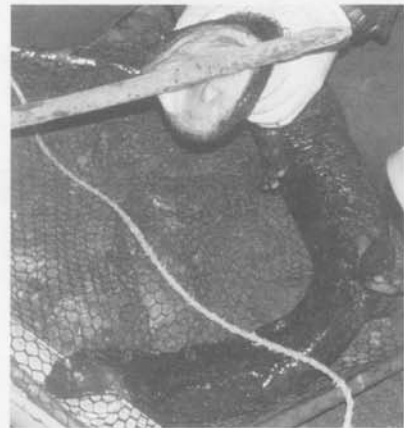
岡山県北部に位置する真庭地域は、旭川の上流域にあり、旧川上村、旧八束村、旧中和村、旧湯原町の全域が国（文化庁）より天然記念物「オオサンショウウオの生息地」の指定を受けている。真庭市北部では、河川とその流域も天然記念物である。生息地指定を受けている真庭市北部には、大山に連なる古い火山（蒜山三座や皆ヶ山）が聳え、広く高原盆地状の地形をなしており、中国山地にあって広々とした水田農村地帯が広がっている。このような特殊な地形条件を反映してか、山地の溪流と水田域を流れる平地河川、田んぼや集落に水を引く水路が絶妙な関係にあり、オオサンショウウオを頂点とする地域固有の生態系が維持されてきた。

特別天然記念物オオサンショウウオとは

「生きた化石」と呼ばれるオオサンショウウオは、数千万年前からほとんど進化せずに生き続けていたとされている。中国南部の四川省とアメリカ大陸東部、そして西日本（岐阜県より西）に3種が生き残ったとされている。

オオサンショウウオという名前は、地方によっては ハンザキ、ハンザケ、アンコウ、ハザコなどと呼ばれている。ハンザキの語源は、半分に切り裂いても生きてるように思えるところからきてるといわれることもあるが、口が大きく、半分に裂けているように見えるからではないかともいわれている。

昔は、動物性蛋白源となる魚や肉の入手が少なかったため、貴重な蛋白源として食用にしていた地方も多く、井戸や池の中に放すこともあり、蒜山地方では「つかい川」と呼ばれる集落内を流れる水路でもオオサンショウウオがよくみられたように、オオサンショウウオは、昔から人々の暮らしと係わりを保ちながら生きてきた。



溪流の王様・オオサンショウウオの生態

オオサンショウウオは「溪流の王者」と呼ばれ、山地の谷川に生息している感が強いが、意外にも河川の中流まで普通に生息し、時に下流の大きな川で発見されることがある。生息地の条件としては、餌となる小魚や昆虫類が生息していること、流れに淵や瀬があり、ある程度の水量があること、水枯れしない隠れ家があること、水温が高すぎないことなどとされている。

オオサンショウウオは、岸辺の1メートル以上もあるような横穴や大きな石の下などによく潜っている。産卵を行う巣穴は、川岸の水中に入り口を開いた横穴で、入り口は小さく、奥は少し広がっている。より好ましい産卵巣穴は伏流水などのきれいな水が流れ込んでいる穴と考えられる。なお、オオサンショウウオの産卵場となる横穴は渇水時で水量が減った時でも水面下となる。

オオサンショウウオの活動は4月頃から活発になり、8月には産卵のための移動がはじまる。8月下旬から9月にかけて産卵し、10月を過ぎるとあまり隠れ家から出てこなくなる。オオサンショウウオは冬眠しない。